

Little eArth Corporation

株式会社ラック

第16期 中間報告書 2022.4.1~2022.9.30

—ネットワーク社会の進展により、
時間的にも空間的にも地球は小さくなっていく—

証券コード：3857

大手企業を中心とした
確固たる顧客基盤

当社は、他社に先駆けて始めたサイバーセキュリティ対策 サービスと、独立系のITベンダーとして幅広い領域のSI サービスを提供しており、大手企業を中心とした確固たる顧客基盤を有しています。

サイバーセキュリティ
対策 サービスに強み

国内最高水準の知見を持つセキュリティエンジニア陣を擁し、悪質かつ巧妙化するサイバー攻撃の脅威からお客様をお守りしています。安定した収益基盤を持つSI 事業を支えに、市場での優位性が高いセキュリティ事業を軸にした企業成長を目指しています。

安心・安全なサイバー空間への貢献

SSS

セキュリティソリューションサービス

24時間365日、リアルタイムで監視する国内最大級のセキュリティ監視センターを軸に、大手企業や官公庁向けに総合的なセキュリティ対策 サービスを提供しています。

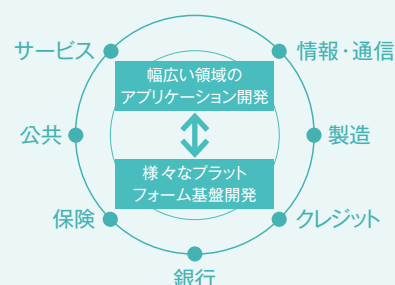


ITによる豊かな社会への貢献

SIS

システムインテグレーションサービス

大手金融機関向け基盤システム開発のノウハウを強みに、幅広い業種のお客様へアプリケーションから基盤まで一貫したSI サービスを提供しています。



「信じられる社会」を 築くことを存在意義とする 新たな経営メッセージを 策定しました



両事業とも伸長し増収増益

新型コロナウイルス感染症の感染者数が国内で過去最多を更新し、ロシア・ウクライナ問題や円安の進行による影響を受けるなど、社会・経済情勢は不透明な状態で推移しています。一旦は取り入れたテレワークも、企業によっては出社を基本とする勤務形態に戻す動きが見られましたが、クラウドなどを活用したデジタル化は着実に進んでいます。そのなかで、身代金要求型攻撃と呼ばれるランサム攻撃などによるサイバー攻撃被害は拡大しており、セキュリティ対策の必要性がさらに増えています。

このような状況において、当社は期初に掲げた「クラウド」「内部不正」「ランサム」の3つの領域に注力し、取り組みを進めました。クラウド対策では、株式会社野村総合研究所（NRI）との合弁会社であるニューリジエンセキュリティ株式会社が、当社とNRIグループが持つ脅威情報を活用し、新たなサービスの提供を開始しました。内部不正対策においては、株式会社エルテスとの資本業務提携により、同社の内部不正監視ソリューションを当社の運用監視サービスの一環として組み込み、大手企業向けに事業を拡大しました。また、ランサム攻撃については、当社が強みとする総合的なサービス提供に加え、セミナーやWebサイトなどを通じた情報提供を強化しました。

これらの取り組みを踏まえ、上期の業績は、セキュリティ事業、SI事業ともサービスを中心に伸長したことで増収増益となり、営業利益は黒字に転換しました。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益については、前期に特別利益を計上したこともあり、減益となっています。

新経営メッセージを策定

DXと技術革新によって2030年までに急速な社会変革が起きると予測し、当社は新中期経営計画（2021～2023年度）を前期に策定しました。これをもとに、当社がこれまで大切にしてきた価値観や社会からの期待を見つめ直し、若手メンバーが中心となって議論を重ね、新たな経営メッセージを策定しました。パーパス（存在意義）を「たしかなテクノロジーで『信じられる社会』を築く。」、ビジョン（目指す姿）として「デジタル社会を生き抜く指針となる。」を掲げています。

パーパスを起点に、会社や仕事の在り方を自ら考え行動することが、社員一人ひとりの成長を支え、会社の成長につながっていくと考えています。サイバーセキュリティのパイオニアとして業界をリードしてきた当社が、深化・高度化するデジタル社会のなかで生き抜く指針となることを目指し、その存在意義を果たしていきます。

「信じられる社会」の実現に向けて 成長を目指す

新型コロナウイルス感染症のみならず、更なる国際情勢の悪化や円安進行への懸念など、先行きの不透明な状況が続いています。加えて、サイバー脅威は増大しており、セキュリティ対策需要が一層浸透していくなかで、当社が果たすべき役割や期待も更に増していくものと思われます。

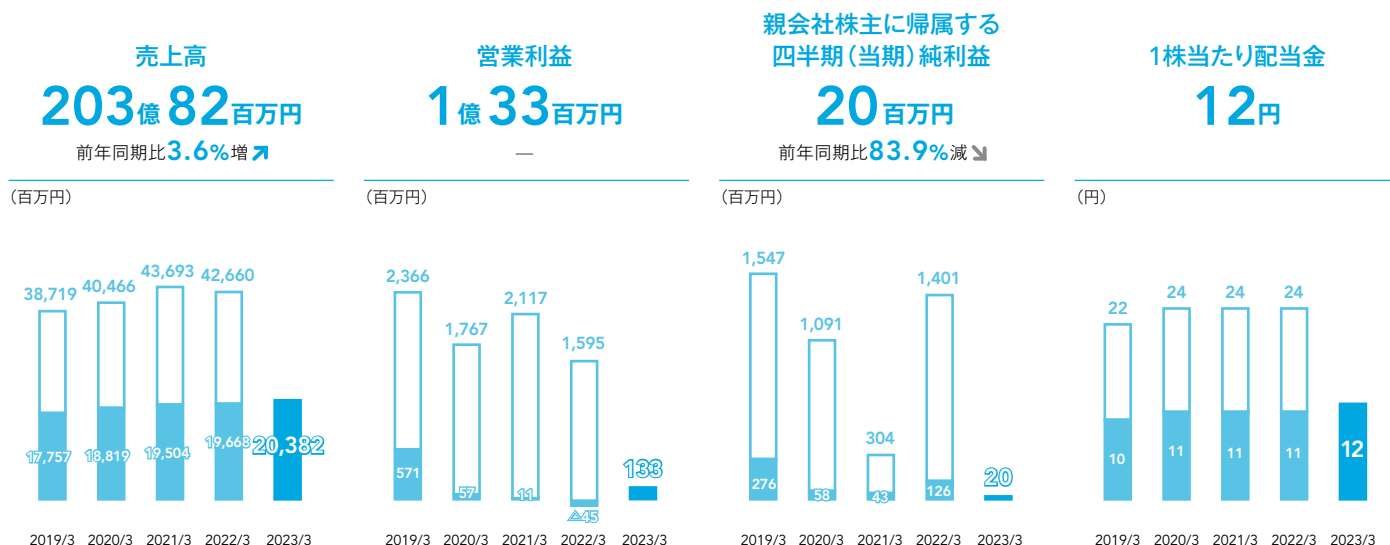
中期経営計画に掲げた「共創と挑戦」とともに、「信じられる社会」を築くという存在意義を指針とし、成長に向けて歩み続けていきます。株主の皆様におかれましては、引き続き中長期的な視点でご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

西本逸郎

業績ハイライト

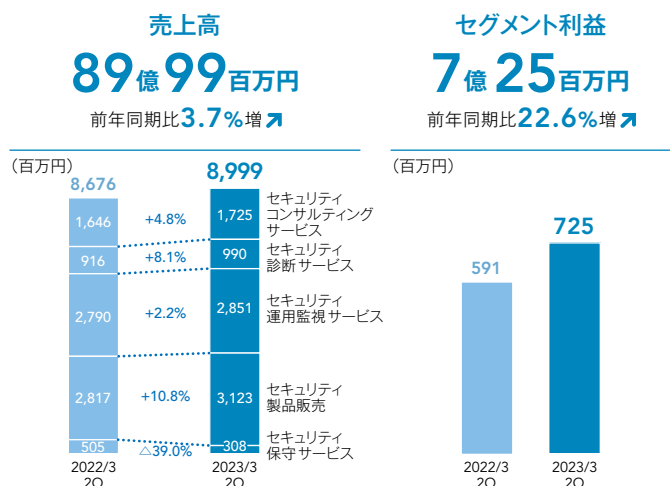
セキュリティ事業はサービス、製品ともに拡大し、SI事業は開発サービスが好調に推移したことにより、増収増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期に子会社株式売却益の計上があったことなどから減益となりました。なお、中間配当金は予定通り1株当たり12円としています。



事業別概況

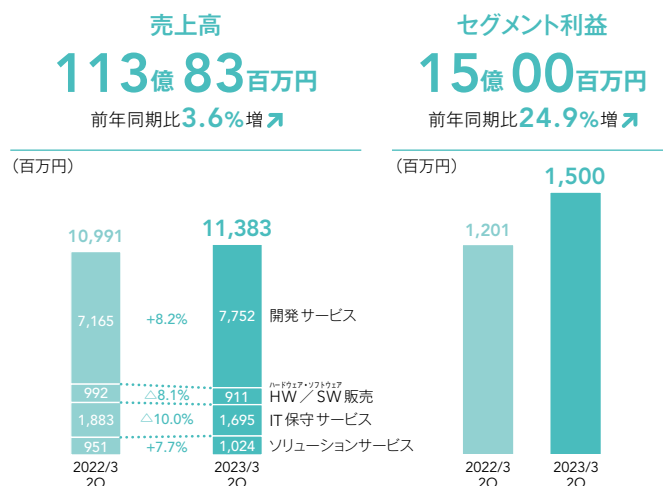
SSS 事業

サイバー脅威が衰えを見せず猛威を振るうなか、コンサルティングや診断サービスが伸長したほか、個別監視や内部不正監視などの運用監視サービス、ならびに製品販売が拡大したことにより、増収増益となりました。



SIS 事業

開発サービスが、大手銀行やクレジットカードなどの金融業向け案件、情報サービス業向けなどで大幅に伸長するとともに、上期としては過去最高の売上高を更新したことなどにより、増収増益となりました。



2023年3月期 業績予想

新型コロナウイルス感染症の感染状況や国際情勢の悪化、円安の進行など社会・経済情勢に不透明感はあるものの、第4四半期に特にセキュリティ事業の業績が偏重する季節性などもあることから、期初に公表した予想値から変更はありません。

	2022/3実績	2023/3予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	42,660	50,000	+7,339	+17.2
営業利益	1,595	2,100	+504	+31.6
親会社株主に帰属する当期純利益	1,401	1,410	+8	+0.6
1株当たり年間配当金(円)	24	26	+2	+8.3

サイバーセキュリティ事業拡大への取り組み

多様化するサイバー脅威に向けてセキュリティ対策サービスの拡充に取り組みました。

解決する課題	SDGsへの貢献
■ 内部不正による社内情報持ち出し等の防止 ■ クラウド環境における安心・安全な運用 ■ 情報セキュリティリテラシーの向上	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう

● 内部不正対策でエルテスと資本業務提携を実施

リモートワークなど働き方が多様化し、社員の行動を把握しづらくなるなか、社内情報の持ち出しなどによる内部不正が問題となっています。

ラックは、このような不正への対策に向け、内部不正監視ソリューションを得意とする株式会社エルテスと資本業務提携を行いました。運用監視サービスをはじめとして、ラックが得意とする外部からのサイバー攻撃対策と組み合わせ、セキュリティ事件・事故の約8割*をカバーできる体制を目指しています。

* 当社のサイバー救急センターへの相談件数。外部による攻撃は約7割、内部不正は約1割。

資本業務提携の概要

出資先企業	株式会社エルテス
引受株数	620,000株
引受金額	605百万円
出資割合	10.25% (議決権所有割合)
契約締結日	2022年4月21日 (払込日2022年5月17日)
業務提携内容	・ 運用監視サービスの事業拡大 ・ インシデント対応サービスの事業拡大 ・ データ分析技術を活用した新ビジネスの開発

● クラウド対策の運用監視サービスのラインアップを拡充

クラウド活用が進むなか、利用企業にとってセキュリティ対策が課題となっており、ラックは株式会社野村総合研究所 (NRI) と合弁会社「ニューリジェンセキュリティ株式会社」を設立し、その課題解決に取り組んでいます。

同社においてラックとNRIグループが持つ脅威情報とAIを組み合わせたクラウドセキュリティ対策エンジンを構築するとともに、これをラックの運用監視サービスに取り入れた「AIクラウドセキュリティ運用支援サービス」を提供開始しました。

本サービスにより、クラウドセキュリティ運用の高度化と、運用にかかる負荷軽減に貢献します。

AIクラウドセキュリティ運用支援サービスの概要

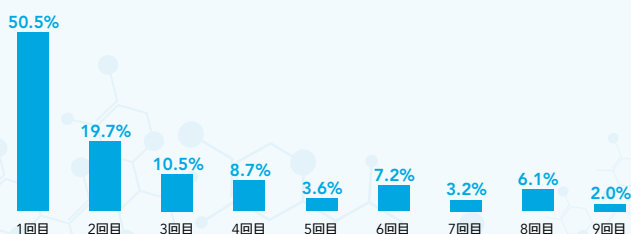


● ランサムウェア攻撃に備えたメール訓練とセキュリティ教育をパッケージ提供

身代金を要求するランサムウェア攻撃が増加するなか、従業員に対するサイバー攻撃へのリテラシー向上が求められています。

ラックが標的型攻撃メール訓練を行った多くの企業で、訓練を繰り返し行うと開封率が下がる効果があることを確認しています。今回提供する「標的型攻撃メール訓練 T3 with セキュリティ教育」サービスは、攻撃メールを見抜く力を高める訓練と、教育プログラムを短時間で学習できるeラーニング研修を組み合わせたものです。年間契約で回数無制限で利用できるため、不正メールへの対応力や万一開封した際の対処法について効果的に身に付けることができます。

組織Aの訓練継続によるメール開封率推移



パッケージサービスの概要



啓発活動の推進

社会のサイバーセキュリティ対策に貢献する取り組みとともに、サイバー脅威に対する情報発信を行いました。

解決する課題	SDGsへの貢献
■ サイバー犯罪の予防と防止 ■ 安心・安全なデジタル社会の実現	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナシップで目標を達成しよう

● セキュリティ・プロ集団によるセキュリティ対策支援団体を設立

デジタル技術が急速に進展するなか、サイバーセキュリティ対策や人材の確保が喫緊の課題となっています。

日本企業の置かれた環境を熟知するラック、NRIセキュアテクノロジーズ株式会社、グローバルセキュリティエキスパート株式会社の3社は、社会や産業全体のセキュリティレベルの底上げを図ることを目的に、「サイバーセキュリティイニシアティブジャパン(CSIJ)」を設立しました。各企業が提供するサービスの高度化や安全性の向上に貢献します。

団体の概要

団体名	サイバーセキュリティイニシアティブジャパン
略称	CSIJ(シーエスアイジェー)
所在地	東京都千代田区
設立年月日	2022年4月1日
活動内容	・ 共通対策評価フレームワークの策定と提供 ・ サイバーセキュリティプロフェッショナル人材フレームワークの策定と提供

● ランサムウェア攻撃などサイバー脅威に対する情報を発信

コロナ禍で急増したサイバー攻撃に対して、最新の事例などを踏まえた対策についての情報発信などを行いました。

サイバー攻撃の被害が頻発する医療機関に向けたセミナーを開催し、医療現場が抱える現状の悩みや不安に寄り添い、医療DXを見据えたセキュリティ対策について解説しました。

また、長期休暇明けの大量のメール整理などでウイルス感染が拡大しやすいことから、夏季休暇明けに感染被害を無料で調査する取り組みも行いました。



パーパス・ビジョンを策定

当社が将来のデジタル社会の課題、問題の解決に向けて進化していくために、これまで当社が大切にしてきた想いや価値観は何か、社会から期待されていることや存在意義は何かを見つめ直し、新たにパーパスとビジョンを策定しました。

パーパス(私たちの存在意義)

たしかなテクノロジーで
「信じられる社会」を築く。

デジタル社会がより高度化・複雑化するなか、私たちは練度の高い多様なテクノロジーを駆使して安心・安全な社会基盤を築き、人々が互いを支え合い、笑顔でいられる社会を実現します。

ビジョン(私たちが目指す姿)

デジタル社会を生き抜く
指針となる。

サイバーセキュリティをリードしてきたパイオニア精神を絶やさず、深化・高度化するデジタル社会における人々のいとなみを守り、業界文化を牽引し、新しい時代を生き抜く指針でありつづけます。

会社情報

会社概要 (2022年9月30日現在)

商号 株式会社 ラック

所在地 〒102-0093
東京都千代田区平河町2丁目16番1号
平河町森タワー

設立 2007年10月1日

資本金 26億4,807万5,000円

従業員数 連結: 2,157名
個別: 1,676名

役員 (2022年6月22日現在)

取締役会長 高梨 輝彦

代表取締役社長 西本 逸郎

取締役 船引 裕司 川下 竜一郎 土屋 奈生

社外取締役 村井 純 中谷 昇 佐々木 通博

村口 和孝

常勤監査役 伊藤 信博

社外監査役 石原 康人 蜂屋 浩一

株式情報 (2022年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株

発行済株式の総数 31,293,120株

株主数 16,968名

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人特別口座の
口座管理機関 三菱UFJ 信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
Tel: 0120-232-711 (通話料無料)

上場市場 東京証券取引所スタンダード

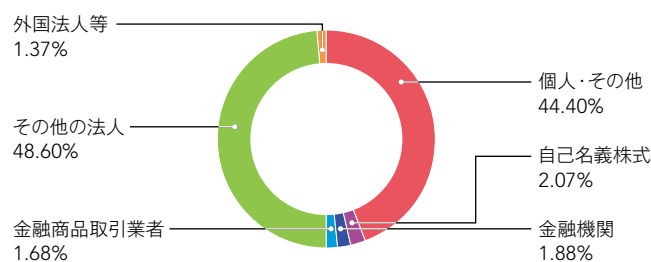
公告の方法 電子公告により行う。
公告掲載 URL <https://www.lac.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない
事故、その他のやむを得ない事由が生じた
ときは、日本経済新聞に公告いたします。)

大株主

	所有株式数 (株)	所有比率 (%)
KDDI 株式会社	9,784,000	31.26
株式会社野村総合研究所	3,130,000	10.00
株式会社 SHIFT	1,334,100	4.26
ラック従業員持株会	1,002,610	3.20
三柴 照和	630,000	2.01
株式会社ベネッセホールディングス	500,000	1.59
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	472,100	1.50
山内 正義	357,300	1.14
高梨 輝彦	268,400	0.85
吉田 茂	257,000	0.82

※自己株式は647,749株ですが、議決権がないため上位10名までの大株主からは除外しております。

所有者別株式分布状況



株主様アンケートのお願い

株主様向け報告書を含めたIR活動の充実を図るため、Webサイトによるアンケートにご協力をお願いいたします。お手数ですが、右記のURLにアクセスしていただき、株主の皆様の声をお聞かせください。(実施期間2023年3月31日まで)



https://krs.bz/lac/m/enq_chukan16

▶「ラックレポート2022」を発行

ラックの価値創造について、あゆみや強み、成長戦略、ESGへの取り組みなどを体系的にまとめています。

今回、新たに特集を設け、サイバーセキュリティ分野でお客様の課題を解決するための取り組みを、担当者の想いなどとあわせてご紹介しています。



https://www.lac.co.jp/ir/pdf/integrated_report_2022.pdf

▶「LAC WATCH」による情報発信

注意喚起などサイバーセキュリティを軸として、主に企業担当者に役立つ情報を随時発信しています。

このほか、社長の西本による対談記事や、ラック社員による事業・サービスに関する記事、またサイバー攻撃をめぐる世界情勢など幅広い情報を掲載しています。



<https://www.lac.co.jp/lacwatch/>

お問合せ

経営企画部 IR室

Tel: 03-6757-0107 / E-mail: ir@lac.co.jp

Business Report Vol.30

